

カレンダー

(ゴチックは本号に掲載の記事)

会 期	集 会 名 (会 場)	〔 掲 載 号 〕
学術集会・講習会		
2001年9月1日(土)~2002年3月31日(日)	日本電子顕微鏡学会関東支部第28回(2001年度)電子顕微鏡試料作製・観察実技講習会	〔 359 〕
3月26日(火)~29日(金)	第13回咧酒セミナー「実践咧酒セミナー・清酒編」	〔 東京・日本醸造協会会館 〕 〔 364 〕
28日(木)~30日(土)	日本植物生理学会2002年度年会および第42回シンポジウム(岡山市・岡山大学一般教育棟)	〔 360 〕
4月19日(金)~21日(日)	平成14年度野外生態実習「植物群落の遷移の調べ方」	〔 東京・国立科学博物館附属自然教育園 〕 〔 364 〕
5月10日(金)	酵素工学会第47回講演会	〔 京都市・京都テルサ 〕 〔 363 〕
12日(日)	平成14年度自然観察会「初夏の雑木林」	〔 東京・片倉城址公園 〕 〔 364 〕
25日(土)~26日(日)	第6回マリノバイオテクノロジー学会大会	〔 東京・東京農工大学工学部小金井キャンパス 〕 〔 362 〕
31日(金)~6月1日(土)	第48回低温生物工学会年会およびセミナー(さいたま市・埼玉大学学生会館)	〔 364 〕
6月1日(土)~2日(日)	平成14年度野外生態実習「土壌動物の多様性を探る」	〔 東京・国立科学博物館附属自然教育園 〕 〔 364 〕
8日(土)~9日(日)	日本動物分類学会第38回大会	〔 茨城県・ミュージアムパーク茨城県自然博物館 〕 〔 364 〕
22日(土)	第17回神経組織の成長・再生・移植研究会学術集会	〔 東京・後楽園会館 〕 〔 363 〕
7月11日(木)~13日(土)	第13回日本生体防御学会学術集会	〔 東京・日大会館 〕 〔 364 〕
8月1日(木)~3日(土)	日本蘚苔類学会第31回大会	〔 石川県・小松ドーム・集会場 〕 〔 363 〕
9月12日(木)~14日(土)	第27回日本医用マスマスケット学会年会	〔 久留米市・久留米大学筑水会館 〕 〔 361 〕
21日(土)~23日(月)	日本植物学会第66回大会	〔 京都・京都大学理学部・農学部 〕 〔 364 〕
24日(火)~27日(金)	日本動物学会第73回大会	〔 金沢市・金沢大学角間キャンパス 〕 〔 361 〕 〔 363 〕

国際会議

2002年3月26日(火)~29日(金)	CONFERENCE ON AN AFRICAN RENAISSANCE: a shared vision for life & environmental sciences in Africa (South Africa, Durban, Durban Botanic Gardens Visitors Centre)	〔 361 〕
5月12日(日)~17日(金)	第15回国際植物脂質シンポジウム	〔 岡崎市・岡崎コンファレンスセンター 〕 〔 360 〕
6月21日(金)~23日(日)	第4回国際食虫植物会議 (The 4th International Carnivorous Plant Conference)	〔 日本大会 東京・国立科学博物館新宿分館 〕 〔 360 〕
26日(水)~28日(金)	第1回アジア光生物学会議	〔 兵庫県・兵庫県立淡路夢舞台国際会議場 〕 〔 356 〕
7月19日(金)~24日(水)	Algae 2002	〔 つくば市・独立行政法人産業技術総合研究所共用講堂 〕 〔 361 〕

編集委員会からのお知らせ 生物科学ニュースに原稿をお送り下さる場合は、テキストファイル(3.5インチフロッピーディスク)の郵送もしくは動物学会(ny02-zsj@t3.rim.or.jp)または植物学会(bsj@ma.kcom.ne.jp)気付の電子メールとプリントアウトしたものを、「ニュース原稿」と明記の上、生物科学ニュース編集委員会宛にお送り下さい。書式などは生物科学ニュース最新号をご参照下さい。今年度の掲載原稿の締切日(必着)は巻末に掲載してあります。

28日(日)～8月3日(土) 第14回国際社会性昆虫学会議 14th International Congress of IUSSI (札幌市・北海道大学構内) [359]

8月11日(日)～18日(日) 第8回国際生態学会議 VIII INTECOL: International Congress of Ecology (韓国・ソウル市 Convention & Exhibition Center(COEX)) [361]

公募 (求人関係は除く)

2002年3月30日(土)	平成14年度公益信託林女性自然科学者研究助成基金 [361]
30日(土)	平成14年度公益信託山村富美記念女性自然科学者研究助成基金 [361]
4月5日(金)	(財)農芸化学研究奨励会第51回国際会議出席費補助金 [359]
10日(水)	(財)神奈川科学技術アカデミ - 平成14年度研究助成 第一段階 [364]
30日(火)	2002年度「女性科学者に明るい未来をの会」研究奨励賞 [357]
30日(火)	平成13年度風戸研究奨励金(国際会議発表研究費助成) [357]
5月15日(水)	(財)三井生命厚生事業団第35回「医学研究助成」 [363]
31日(金)	第14回加藤記念国際交流助成 前期 [364]
8月31日(土)	第14回加藤記念国際交流助成 後期 [364]

(社)日本植物学会, (社)日本動物学会へのお問い合わせは下記のとおりをお願いします。

(社)日本植物学会 電話 03-3814-5675 (9時半から4時半まで)

E-mail bsj@ma.kcom.ne.jp

(社)日本動物学会 電話 03-3814-5461 (9時から4時まで)

E-mail ny02-zsj@t3.rim.or.jp

両学会共通 FAX 専用 03-3814-5352

学術集会

●第48回低温生物工学会年会およびセミナーが、5月31日(金)～6月1日(土)に、埼玉大学大学会館(さいたま市下大久保255)で開かれます。内容は次の通りです。

5月31日: セミナー“ストレスと生物の応答・適応—その分子・細胞機構と応用—” 1. 会長挨拶(村勢則郎), 2. 「分子シャペロンとプロテアソーム—タンパク質の生成と分解をコントロールする仕組み」(東大院理・南康文), 3. 「ラン藻の低温センサーと低温適応」(基生研・鈴木石根), 4. 「植物の低温・乾燥ストレス応答と耐性獲得の分子機構」(国際農林水研セ・篠崎(山口)和子), 5. 「Cold Tolerant Tomato by Genetic Engineering of Glycinebetaine Biosynthesis」(Oregon State Univ.・T. Chen), 6. 「Environmental Regulation of a 24 kDa *Cornus sericea* Dehydrin-like Protein and its Relationship to Freeze-Tolerance」(Nat'l. Agri. Res. Center for Hokkaido Region・D. Karlson), 7. 「ラン藻の化学生態と乾燥耐性」(阪大院工研・小林昭雄), 8.

「昆虫の乾燥に対する生理的適応戦略」(農生研・奥田隆他), 9. 「凍結乾燥によるタンパク質の構造変化と添加剤による安定化」(国立医食衛生研・伊豆津健一), 10. 「血液センターにおける凍結技術の活用 - 血漿製剤由来生体組織接着剤(フィブリングルー)の調製方法 - 」(北海道赤十字血液セ・秋野光明他), 11. 「高分子ゲルビーズの凍結と乾燥」(東京電機大理工・村勢則郎), 12. 総合討論

6月1日: 年会(一般講演)(募集中)

発表申し込みは4月30日(火)(会員に限る)締め切り。参加費はセミナーと年会を含めて会員4,000円, 非会員6,000円, 学生会員2,000円です(講演要旨集代も含みます)。懇親会は、5月31日(金)18時15分から埼玉大学大学会館3F きゃら亭で開催します(会費: 3,000円)。

なお、詳細については学会ホームページ(<http://www.soc.nii.ac.jp/jscc/index.html>)でも案内しています。

〔連絡先〕 338-8570 さいたま市下大久保255 埼玉大学理学部生体制御学科 菅原康剛 TEL 048-858-3410 FAX 048-858-3698 E-mail sugawara@post.saitama-

u.ac.jp

●日本動物分類学会第38回大会が、6月8日(土)~9日(日)に、ミュージアムパーク茨城県自然博物館(茨城県岩井市大崎700 [http://www.nat.pref.ibaraki.jp/])で開かれます。内容は次のとおりです。

6月8日(土)午後:一般講演およびポスター発表(募集中),総会;夜:懇親会

6月9日(日)午前:一般講演およびポスター発表(募集中);午後:特別講演(養老孟司氏)

参加および発表申し込みは4月30日まで郵便にて受け付けます(講演は学会員に限ります)。大会参加費は一般3,000円,学生2,000円(当日払いは各々3,500円,2,500円),懇親会費は4,000円です。

〔連絡先〕310-8512 水戸市文京2-1-1 茨城大学理学部地球生命環境科学科内 日本動物分類学会第38回大会事務局 森野 浩 TEL 029-228-8376 FAX 029-228-8403 E-mail morino@mito.ipc.ibaraki.ac.jp

●第13回日本生体防御学会学術集会が、7月11日(木)~13日(土)に、日大会館(東京都千代田区九段四丁目8番24号)で開かれます。

詳細は下記に問い合わせてください。

〔問合先〕113-8657 東京都文京区弥生1-1-1 第13回日本生体防御学会学術集会事務局 総会長 小野寺 節(東京大学農学部応用免疫学教室) TEL 03-5841-5196 FAX 03-5841-8020 E-mail aonoder@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp ホームページ http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/molbio.dir/jsbdr/

講 習 会

●第13回酎酒セミナー「実践酎酒セミナー・清酒編」が、(1回目)3月26日(火)~27日(水),(2回目)3月28日(木)~29日(金)に、日本醸造協会会館2階(東京都北区滝野川2-6-30)で開かれます。内容は次の通りです(1回目,2回目共通)。

1日目(講師:元国税庁醸造試験所 佐藤俊一):
(講義)1)官能検査法と酎酒の理論/(実習)2)においの識別,3)アルコール度数の順位,4)日本酒度の順位,5)甘味の識別等/(講義)6)酎酒結果。

2日目(講師:元関東信越国税局 齊藤泰夫):(講義)7)最近の市販清酒の酒質傾向/(実習)8)酸味

の識別,9)味の濃淡・甘辛の識別,10)香気特性の記憶と識別,11)タイプ別清酒の記憶と識別,12)各地の市販酒の酎酒,13)酎酒の総評。

参加費は52,500円,定員は80名(2回合計)です。詳細は下記に問い合わせてください。

〔申込・問合先〕114-0023 東京都北区滝野川2-6-30 (財)日本醸造協会 TEL 03-3910-3853 FAX 03-3910-3748

●平成14年度野外生態実習が、国立科学博物館附属自然教育園講義室および園内(東京都港区白金台5-21-5)で、下記の日程で行われます。

4月19日(金)~21日(日)「植物群落の遷移の調べ方」/講師:自然教育園・萩原信介

6月1日(土)~2日(日)「土壌動物の多様性を探る」/講師:横浜国大・伊藤雅道

対象は、生態学および個々の専門の基礎的知識を有する小学校・中学校・高等学校の教員,大学生,研究者および一般ただし、各実習とも全日程に出席できる方に限ります。募集人員は各実習テーマ毎に20名で、実施日1か月前から電話で受け付けます。参加費は3,000円(教材費等)です。実習経費納入後(郵便振替00100-3-24945,財団法人野外自然博物館後援会),受講票が郵送されます。

〔問合先〕108-0071 東京都港区白金台5-21-5 国立科学博物館附属自然教育園 TEL 03-3441-7176

●平成14年度自然観察会「初夏の雑木林」が、5月12日(日)に、片倉城址公園で行われます。

武蔵野の面影を残す雑木林で、ほうの木の大い大きな花や色とりどりの野草,カラスアゲハなどの蝶たちが観察されます。また、飛ぶ宝石と呼ばれるカワセミも見られるかもしれません。自然に親しみながら、動物や植物の名前を知り、これらの観察を通じて自然愛護の気持ちを育てます。指導者は国立科学博物館附属自然教育園職員です。募集人員は50名(小学生以上,小学生には保護者の参加が必要)で、実施日1か月前から電話で受け付けます。参加費は無料(ただし、保険料として1人50円当日支払)です。申込が受理された方には参加通知書を郵送します。

〔問合先〕108-0071 東京都港区白金台5-21-5 国立科学博物館附属自然教育園 TEL 03-3441-7176

公 募

- (財) 神奈川科学技術アカデミーによる平成14年度研究助成(第一段階)が募集されています。

助成対象は主として神奈川県内在勤または在住の若手研究者(概ね40歳以下)で、勤務先の承諾を得られる方です。助成対象は、神奈川県民および神奈川県内産業への寄与が期待され、科学技術発展のためのシーズとして大切な創造的基礎研究であり、企業利益を直接の目的としないものです。

本制度の特徴は研究の進展に応じた段階的助成方式で、第一段階(本公募)は1件当たり50万円以内で公募制(8件以内)、第二段階は1件当たり150万円以内で前段階対象者から募集、第三段階は1件当たり300万円以前段階対象者から募集されます。

応募締切は4月10日(水)(必着)です。応募希望者は募集要綱を下記に請求してください。申請書の様式は、財団ホームページ(<http://home.ksp.or.jp/kast/>)からもダウンロードできます。

〔問合先〕 213-0012 川崎市高津区坂戸3-2-1 KSP 西棟614 (財) 神奈川科学技術アカデミー 教育交流部 交流普及課 TEL 044-819-2032 FAX 044-819-2097 E-mail sc@kast.or.jp

- 第14回加藤記念国際交流助成の対象者が募集されています。

平成14年4月1日から平成15年3月31日の間に海外で開催されるバイオサイエンス分野の学会、シンポジウム等で研究発表を行う日本国内在住の研究者(応募締切日に35才以下、ただし医学系は37才以下)に対し、所要経費の一部が援助されます。助成の総額は750万円で、援助件数は30件程度(前期:20件程度、後期:10件程度)です。申込締切は、前期(4月1日~9月30日に研究発表)は5月31日(金)、後期(10月1日~翌年3月31日に研究発表)は8月31日(土)です。応募を希望する人は、所定の申請用紙(下記へはがきまたはファクシミリで請求)に必要事項を記入し、下記へ送ってください。

〔問合先〕 194-8533 東京都町田市旭町3-6-6 (財) 加藤記念バイオサイエンス研究振興財団 TEL 042-725-2576 FAX 042-722-8614 担当 松浦智佳子

- 京都大学大学院理学研究科生物科学専攻動物学系動物生態学学科で助教授1名が公募されています。

専門分野は、水生の動物個体群または群集生態学です。生活史に基礎を置いたフィールドワークを研究の中心としながら、動物生態学を幅広く指導できる、博士の学位を持つ若い方が望まれます。自薦他薦を問いません。任用予定時期は10月です。

提出書類は、1)履歴書、2)業績リストと代表的な論文10編以内の別刷り各1部(業績リストに○印を付けて下さい)、3)現在までの研究の概要、4)今後の研究および教育についての抱負、5)他薦の場合は、上記(1)-(4)に相当する書類と推薦状です。応募の締切は4月15日(月)です(消印有効)。封筒表面に「教官応募」と朱書き、書留で送付してください。なお、当該公募分野の平成14年度以降のスタッフは、堀 道雄教授、曾田貞滋助教授、および本公募による助教です。〔応募書類の送付先および問合先〕 606-8502 京都市左京区北白川追分町 京都大学大学院理学研究科生物科学専攻動物学教室 教室主任 今福道夫 TEL 075-753-4073 FAX 075-753-4113 E-mail ima@ci.zool.kyoto-u.ac.jp

- 山形大学理学部生物学科生物多様性大講座で教授1名が公募されています。

先に公募のあった山形大学理学部生物学科教授1名(生物多様性大講座:生物学科は生体機構大講座との2大講座で構成)[361]は、以下のように公募要領を改め再公募することになりました。優れた業績を挙げ、教育に熱意をもつ方の応募が望まれています。自薦他薦は問いません。

専門分野は、動物の、主に細胞ないしは個体レベルを対象とした系統・遺伝・進化です。担当授業は、学部の専門科目(講義・実験・実習)、教養科目および大学院の講義・セミナーです。上記授業の他に学部の卒業研究、大学院(理工学研究科)の学位(修士・博士)研究の指導も担当することになります。応募資格は、50歳以上で、博士の学位を有し、研究・教育への情熱と優れた業績を有する方です。採用予定は、10月です。提出書類は、1)履歴書(学会活動、受賞、招待講演などの特記事項を含む)1通、2)業績目録1通、3)主要論文の別刷(10編程度)、4)これまでの研究概要(2000字以内)1通、5)今後の研究・教育に対する抱負・希望(2000字以内)1通、7)応募者についての照会に応じられる方(2名)の氏名及び連絡先を記した書類1通です。応募締切は、5月10日(金)(必着)です。応募書類を郵送する場合は

封筒表に「生物学科教官応募書類在中」と朱書きし、書留または簡易書留で送付してください。

〔書類提出先・問合せ先〕 990-8560 山形市小白川町 1-4-12 山形大学理学部生物学科 原 慶明 TEL 023-628-4610 FAX 023-628-4625, E-mail hara@sci.kj.yamagata-u.ac.jp

●理化学研究所で平成15年度基礎科学特別研究員が公募されています。

募集分野は、物理学、化学、生物科学、医科学、工学の各分野で、理化学研究所で実施可能な研究です。応募資格は、平成15年4月1日現在35歳未満で、自然科学の博士号取得者又はこれと同等の能力を有すると認められる者です。(日本国に永住権を有さない外国人にあっては、上記に加え次の条件を満たす者。応募日現在に日本国に在住している者。日本国の大学院博士課程を修了(見込を含む)し、博士号を取得(見込を含む)の者。)応募要項頒布開始は4月上旬の予定です。応募要項の請求は、下記 FAX または E-mail へ 郵便番号、住所、氏名(漢字)、氏名(カタカナ)を記入し、送信してください。要項代は無料です。応募願書の締切は5月31日(金)(必着)です。着任時期は、平成15(2003)年4月1日です。なお、本件は当研究所予算の成立を前提としており、その事情により変更がありえます。

〔問合せ先〕 351-0198 埼玉県和光市広沢2-1 理化学研究所 総務部 人事第2課 基礎科学特別研究員担当 TEL 048-467-9268 FAX 048-463-3687 E-mail wakate@postman.riken.go.jp

●岡山大学理学部附属臨海実験所で教授1名が公募されています。

本公募は臨海実験所山本雅道教授の平成15年3月末の停年退官にともなうものです。着任後は、本学教養教育、理学部生物学科の専門科目の講義、課題研究と臨海実習の指導、大学院自然科学研究科の講義と研究指導を担当し、当附属臨海実験所の運営にあたることになります。なお、当附属臨海実験所の概要についてはホームページを見てください。(http://www.science.okayama-u.ac.jp/rinkai/ushi.htm)

研究分野は海洋生物学(海産生物を対象とした基礎生物学的研究)で、着任時期は、平成15年4月1日の予定です。

提出書類は、1)履歴書、2)研究業績リスト(原著論文と総説・著書などに分けて作成、corresponding author となった論文には丸印)、3)主要な論文の別刷りまたはコピー(5編。その他に参考となる総説があれば添付して下さい)、4)研究成果の概要(2000字程度)、5)今後の研究と教育に関する抱負(2000字程度)、6)学会活動、科研費等取得状況、その他の参考となる資料、7)人物照会が可能な方2名の氏名と連絡先です。提出期限は、5月31日(金)(必着)です。

〔書類提出先および問合せ先〕 700-8530 岡山市津島中 3-1-1 岡山大学理学部附属臨海実験所教授選考委員会 委員長 高橋純夫 TEL 086-251-7866 FAX 086-251-7876 E-mail stakaha@cc.okayama-u.ac.jp

●藤原ナチュラルヒストリー振興財団による公募がありましたことは既にお知らせしましたが〔354〕、次の方々に決まりました。

平成13年度学術研究助成：神戸市立葺合高・丹羽信彰 ほか22件

書 評

からだ読本シリーズ 老化 近藤 昊・井藤英喜著、山海堂、2001年、254ページ、1,800円(本体価格)

教養として楽しみながら学ぶ科学としては、老化の科学こそが適切な分野ではなからうかと、本書を読んで再認識した。考えてみれば、老化の科学は、これから否応なしに変わりゆく自分の身体との適切なつき合いのためのヒントを教えてくれる「おまけ」つきの基礎科学だからである。実はこの数年、さまざまなモデルを対象に、最新の手法を用いたアプローチでの老化研究の進展がめざましく、それ故「老化研究に関する現在の到達点を、一般の方にもわかるようにやさしく体系的にまとめるいい時期」(著者らの言葉)が来てはいたが、それが困難であることも明白であった。それを成し遂げ、時節に遅れず出版して下さった著者にはここで敬意と謝意を表したい。さて、本書は、専門用語の解説から、主な老化学説16説の概説のあと、そのうちのどれかに固執することなく老化のメカニズムを2000年の研究成果までも引用して、縦横に論じている点で秀逸である。特に、ヘイフリックで有名なインビトロ細胞老化モデルの研究成果から個体の老化をどのように考えるか、さらに現在の問題点までも示してくれており、著者と近い立場におかれて

いる読者の一人としては、思わず刮目して読んだ次第である。本書は、その上で、ヒトの身体機能の加齢変化、高齢のヒトに多い病気や身体の問題をわかりやすく解説し、最終章には親切にも老化を防ぐ方法をまとめてくれてあり、寿命が何年か分延びたような得した気にしてくれた。このように本書は、幅広い読者層に対応できるよう上手くまとめられた優れたもので、一般の方はもちろん、これから老化研究を目指す方、老化についての基礎研究のアウトラインを知りたい方、生物学にかかわる全ての方におすすめしたい。

(東京都老人総合研究所 浅賀宏昭)

Invertebrate Tissue Culture Methods Jun Mitsuhashi
著, Springer, 2002年, 446ページ, 11,000円(本体価格)

ヒトやネズミ、ニワトリなどの高等脊椎動物の組織培養は、最近の分子細胞生物学の研究には必須の技術となっているが、昆虫や軟体動物などの無脊椎動物の細胞培養の技法については、まだ限られた研究にしか利用されていない。しかし、ショウジョウバエやカイコ、カなどの昆虫の組織培養については、すでに前世紀の後半から盛んに行われるようになり、遺伝学やウイルス学、内分泌学などの分野では多くの成果が挙げられている。

著者の三橋 淳博士は旧農林省の研究で早くから昆虫細胞の体外培養を試み、1962年オーストラリアでヤマモユガ (*Antheraea eucalypti*) のサナギの卵巣細胞の長期培養に成功した T.D.C.Grace 博士のもとで研鑽を積み、これまで半世紀にわたって昆虫の細胞培養を続け、本書はさらに無脊椎動物一般についての培養技法とその成果をまとめたものである。

鱗翅目や双翅目その他多くの昆虫類や、ウニ、カタツムリなど多くの無脊椎動物の細胞や組織の体外培養の際の培養液、培養材料の滅菌法、これまでの成果などが解説されている。今後、ヒドラやセンチュウなど新しい研究材料を使った研究の発展に、このような培養技術が広く取り入れられることが期待される。

(国立遺伝学研究所 黒田行昭)

色素細胞 - 機能と発生分化の分子機構から色素性疾患への対応を探る 松本二郎, 溝口晶子編, 慶応義塾大学出版会, 2001年, 288ページ, 6,000円(本体価格)

動物には色素細胞と呼ばれる細胞種があって体色や紫外線防御に関わっている。下等動物ではその役割はさら

に多彩で、保護色や婚姻色などは生殖、摂食、防御といった個体や種の生存戦略において重要な役割をしている。ヒトでは悪性度が高い黒色腫など色素細胞をめぐるさまざまな疾患が医学の課題の一つになっている。そこまでは行かなくても、シミ、白斑、白髪なども色素細胞に関わる美容上の悩みである。本書は色素細胞の発生と分化およびその制御因子、哺乳動物の毛色発現、メラニンの生合成に関わる鍵酵素、関連蛋白および細胞内シグナル伝達系、メラノソームの構造と機能、昆虫や魚類の色素細胞やパターン形成、白皮症、難聴、悪性黒色腫などの色素細胞の疾患などについて細胞・分子生物学の観点から最新の成果を19章にわたって述べたものである。本書の執筆者は色素細胞研究会(日本色素細胞学会)を40年以上にわたって続けてきた生物学者と医学者のグループである。本書は色素細胞をめぐる生物学とヒトの疾患が細胞・分子生物学の枠組みの中で統一的に理解されるようになる日が近いことを感じさせる。これは学問の流れから当然のように思われるかも知れないが、執筆者らの永年に渉る共同作業の成果の表れでもある。

さて読者は次のことをご存じだろうか。ダーウィンの「種の起源」には青眼のネコは難聴である、と書かれている。シャム猫の毛の色は体幹は白色であるが、四肢、尻尾、顔とくに鼻は茶色から黒色をしている。野生型マウスのネズミ色の発現に関わる遺伝子は肥満にも関係している。こんな話を読むのも本書の楽しみの一つである。唯、欲を言わせてもらえば、初心者向けの教科書的記載がもう少しあればと惜しまれる。

(名古屋大学・生物分子応答研究センター純系動物開発

尾里建二郎)

寄贈図書の書評希望者募集

生物科学ニュース編集委員会では、本委員会に寄贈されました下記の本の書評希望者を募集いたします。希望者は編集委員会まで葉書、FAX または E メールでご連絡ください。書評をお願いする場合は本と執筆要領を送りいたします。但し希望者多数の場合、どなたにお願いするかは編集委員会にご一任願います。尚、出版社より編集委員会に書評依頼のあった単行本以外の書評、および書評の投稿は受け付けておりませんのでご了承ください。

Iranian Entomology (2-vols. Set)Vol. 1-Faunal Studies/ Vol. 2- Applied Entomology Cyrus Abivardi

著 1033頁 (Vol.1~2) 2001年 Springer-Verlag
 24,730円 (本体価格・以下同) / 日本コウモリ研究誌
 翼手類の自然史 前田喜四雄著 203頁 2001年 東京
 大学出版会 3,700円 / ポピュラーサイエンス199 広域
 大気汚染 - そのメカニズムから植物への影響まで -
 若松伸司, 篠崎光夫共著 226頁 2001年 裳華房
 1,600円 / 森林の環境・森林と環境 - 地球環境問題への
 アプローチ - 吉良竜夫著 358頁 2001年 新思索社
 3,800円 / 先端バイオの先を読む - トップサイエンテ
 ィストたちの知的格闘 - 大石道夫・中村祐輔・勝木元
 也・中西重忠・本庶 佑・鍋島陽一・C. Cantor・岡田

清孝・小原雄治・宮田 満・服部恵子著 173頁 2001
 年 共立出版 1,400円 / X-ファイルに潜むサイエン
 ス - ミュータント, ウイルス, エイリアンの実像 ア
 ン・サイモン著 中村雅美監修 熊井ひろ美訳 484頁
 2002年 文一総合出版 2,400円
 [連絡先] 113-0033 東京都文京区本郷2-27-2 東真ビ
 ル 生物科学ニュース編集委員会 FAX 03-3814-5352
 E-mail pdp@sakura.cc.tsukuba.ac.jp, naruse@biol.s.u-
 tokyo.ac.jp

生物科学ニュース編集委員会